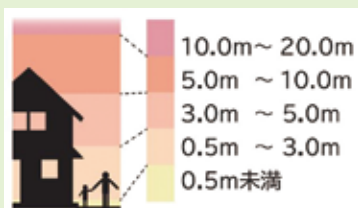


今月のテーマ 「内水ハザードマップ」

内水氾濫による浸水被害は、洪水によるものより発生の可能性が高いと言われています。令和4年8月の大雨時は、市内でも内水氾濫による浸水被害が多く見られました。想定最大規模の降雨に対応した新しい内水ハザードマップで、水害対策を見直してみませんか。

内水ハザードマップを見るポイント

- ①自宅の想定される危険度(浸水深や土砂災害(特別)警戒区域)
- ②避難のタイミング、避難先、避難方法
- ③日頃からの備え(家庭での備蓄、住居の浸水対策など)



浸水の深さによる色分け

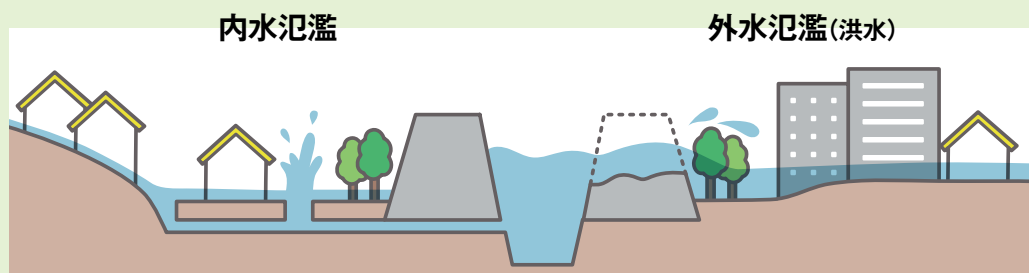
要チェック!

- ✓内水ハザードマップと洪水ハザードマップでは浸水の想定が異なる
→必ず両方を確認
- ✓洪水時の避難経路(アンダーパス)の位置や経路の浸水深
→内水ハザードマップで確認



◀ハザードマップはこちら

内水氾濫と外水氾濫(洪水)のイメージ



雨量が排水能力を超え、低い土地などで浸水が発生。河川の水位も上がり、警戒が必要な状態。

さらに雨が激しく降り続けると…

堤防が決壊するなど、市街地に河川の水が流れ込む大きな浸水被害が発生。

浸水深や避難場所を確認できるマップ



NEW 内水ハザードマップ



洪水ハザードマップ

※内水ハザードマップは対象地域の人のみ配布しています。



備えのススメ
わたしから始まる防災

vol.15

危機管理課
問い合わせ

☎ 24・8150

内水・洪水の浸水深や避難場所はアプリの防災マップ機能でも確認できます▼

